

1997年度前期全カリ総合科目アンケートを実施して

佐々木一也

全カリ実施初年度に当たり、前期のカリキュラムを実施してみて、学生の反応を確かめ、意識動向を探るべくアンケート調査を行った。前期末の7月に、英語の統一試験の対象者である1年次生2281名、前期の保健体育講義の受験者である2年次生1473名を対象として、それぞれ試験終了後に実施した。

アンケートは共通部分29問、1年次生向け16問、2年次生向け10問からなっている。集計結果の具体的で詳しい数字は、残念ながらここでは全部を示すスペースがない。詳しいデータを知りたい場合は全カリ事務室に資料を請求していただきたい。また、自由記述部分も設けたが、それらも適宜紹介するにとどめたい。ここではデータに表れた学生の動向を私の観点からまとめ、評価してみる。

いくつかの例外を除いて、質問に対しては、「a大いに b少し cあまりない d全然ない e分からない」の5選択肢から選ばせた。

まずは 共通の質問 から

全カリ総合科目全体の印象

高校の授業との違いを感じるか？

両者ともに70%近く、しかもその内半分が「大いに」と肯定的に答えてくれた。高校の繰り返しという批判には答えていると言えようか。

興味を引かれる科目があったか？

1年が64%、2年が57%肯定してくれた。ただし、「大いに」は1年18%、2年11%に過ぎない。

専門科目との違いを感じるか？

1年が62%、2年が75%肯定。その差は「大いに」の差である。2年では33%が「大いに」と答えてくれた。2年の方が専門科目に触れる機会が多く、比較しやすかったのかもしれない。

総合科目の必要性について自由記述欄を設けたが、「専門の位置づけが分かる」「幅広い視野が養われる」「自分の興味で学習できる」「専門が自分に合わないので必要」「生きてゆくのに必要な教養が身に付く」という積極的評価の声があった半面、「単位のためだけで意味がない」「つまらない」「内容が期待を裏切っている」「やる気のない先生がいる」「もっと専門をやりたい」「必要単位が多すぎる」などの批判的意見もあった。

科目選択で一番重視するのは何か？

これはまず数字をそのまま挙げておこう。1年--「自分の知的関心」50%、「先輩・友人達の情報」17.4%「授業内容」16.9%、「時間割の都合」11%、「その他」2%。2年--「自分の知的関心」45%、「時間割の都合」19%、「授業内容」18%、「先輩・友人の情報」13%、「その他」2%。知的関心が両者共に半数いるのは当然なのか、驚くべきことなのか。2位の違いも興味深い。1年は大学がまだよく分かっていないせいだろうか。2年になると情報が下位になり時間割の都合が出てくるあたり、単位目当てがのぞいている。授業内容が振るわない現実を教員は直視しなければならない。それとも、学生は履修要項を読まないのだろうか。

履修要項について

1年で46%、2年で44%が大いに読んでいると答えている。「少し」を加えると両者共に80%が読んでいる。私が学生にアンケートをする度に学生はいつもこのように回答する。履修要項でもっと勝負すべきかもしれない。

それでは、実際の授業は要項通りだったのだろうか。「大いに」と答えたのは1年で10%、2年で12%、少しが42%と47%。否定的に回答したものがそれぞれ41%、28%。1年では否定が大きく、評価が厳しい。

これにも自由記述が多く、「もっと

具体的に」「嘘を書くな」「成績評価方法を正しく書け」「評価基準を明記せよ」「要項通りに実践して欲しい」などの不満の記述が目立った。多くは授業内容と、成績評価方法の具体的記述と、それらの記述通りの実行を求めるものであった。教員はこの声を無視することはできないだろう。

総合A群で一番興味あるカテゴリーは何か？（「数理」を除く）

これも数字を挙げておく。1年--「歴史・社会」33%、「芸術・文学」22%、「思想・文化」17%、「環境・人間」16%、「生命・物質・宇宙」10%。2年--「歴史・社会」31%、「芸術・文学」21%、「思想・文化」19%、「環境・人間」14%、「生命・物質・宇宙」11%。全体的に社会科学的科目が支持されている。実際の履修登録数、単位取得者数などをも考慮して、科目配置を再考する必要があるかもしれない。

総合B群について

無回答が目立つ項目。特に2年には多い。履修していない学生が多いのだろう。意外だったのが、複数教員担当の是非についてである。是非が拮抗している。1年、是が34%、否が33%。2年、是が29%、否が25%。総合Bの運営方法に関して、工夫が望まれる。

B群科目の種類・数を増やすことについても、拮抗している。1年、50%対33%、2年、37%対39%。2年はこ

れからの履修を考えると積極的になれないのかもしれないが、1年の消極的意識には考えさせられる。大学の通常授業に十分親しんでから総合Bをもう一度評価してもらいたい。2年にも卒業までの全カリという理念を徹底する必要がある。

情報科学について

パソコン実習の希望は圧倒的で、1年の55%、2年の58%は大いに望んでいるし、「少し」を含めると、いずれも80%近くが希望している。

情報科学の科目区分は分かりにくく、「情報科学1・2」と「情報科学3・4」の区別がつくのは1年で21%、2年で11%に過ぎない。

情報関係科目の展開数は1年の57%、2年の50%が不十分と答えている。

バラエティに関しても厳しく、1年の51%、2年の47%が不十分としている。

これらは予想のつく結果ではあるが、我々として一層の努力を求められている。

大規模授業について

立ち見が出るような授業は敬遠するとしたのは両者共に20%弱で、内容次第によっては履修したいとする学生はそれぞれ39%と43%であり、それに対し、1年の33%、2年の30%が出席しなくても単位がもらえればかまわないとしているのは、どう理解すべきなのだろうか。後のいわゆる「楽勝科目」

のところで考えたい。

私語をしたりする受講態度の悪い学生がいるとき、自分で注意する学生はいずれも4%しかいない。大半は(54%、56%)しようがないとあきらめている。教師もだめなのか、22~23%しか教師の私語制圧に期待していない。大規模授業で私語が発生したときの状況が図らずも表れている。

それでは大規模授業はコマ数が増えれば改善されそうかと問えば、肯定がやや上回る程度だ。1年で48%対40%、2年で46%対43%。これも学生の「楽勝科目」への思惑と関係あるのだろうか。

いわゆる「楽勝科目」について

もし楽勝科目なるものが存在するとしたら、内容よりも単位がお目当ての学生が少なからずいる限り、それは大規模授業になるだろう。時間割が空いたので埋め草の科目を入れる。単位さえもらえれば何でもよいというわけだ。だから大規模授業でもかまわないと言う学生が3分の1以上出て来てしまう。大規模授業がなくならないうと、楽勝科目への期待ともとれる。

楽勝科目が必要かと問えば、1年では、大いに必要とするもの44%を含めて75%、2年では「大いに」が50%で全体では84%が必要と答えている。楽勝科目がなくなっても困らないと言う

学生は1年で24%、2年で16%しかない。

ただ、そういう学生が、大学での学習において楽勝科目に全面的に依存しているわけでは必ずしもない(当たり前かもしれないが)。殆ど全部か半分以上の科目を楽勝科目で埋め尽くしてしまいたいという学生が、1年で46%、2年で52%という数字は衝撃的だ。しかし、その内、殆ど全部としているものはさすがに14%前後であり、あとのものは自分の気に入ったものは一生懸命取り組むということかもしれない。楽勝科目は取っても半分以下で僅かとするものが、1年で34%、2年で27%いる。ちなみに楽勝科目には見向きもしないというものは、それぞれ7%ずつである。我々は楽勝科目という現実から目を背けてはならないし、卒業単位数、学生の実質的学習を考えて、カリキュラム規模を設定する際の参考材料にすべきかもしれない。

演習科目について

この質問も無回答の多い項目である。演習の収容定員から言ってやむを得ないかもしれない。

演習科目のバリエーションの適否については意見が真っ二つに分かれた。適とするもの、いずれの学生でも28%であるのに対して、否とするもの1年で42%、2年で31%だった。どちらかといえば不十分だとされた。

開講コマ数については適とするもの、1年で28%、2年で26%であるのに対

して、否とするもの、1年で42%、2年で30%である。1年で評価が悪い。

1年生には十分な全カリ演習が用意されるよう期待する。

演習の定員であるが、30人という数字には少なすぎるという声特に1年から出ているが(31%)、適当と考える1年生も多く(43%)、2年で適とするものが圧倒的(50%対22%)なので、概ね妥当であろう。

スポーツ実習について

半数の学生はスポーツ実習を履修したいと考えている。1年の54%(内「大いに」は30%)、2年の47%(内「大いに」は23%)。逆に、全然履修意志がないと答えたのは、1年で14%、2年で21%である。1年のほうがややスポーツに対する志向が強い。

種目のバリエーションについては不満が強い。不十分とするものが十分だとするものの1年で2.4倍(割合は58%)、2年で3.1倍(62%)にも達する。履修できる時間帯に自分の好きな種目がないのだろうか。

開講コマ数にも1年で不満が多い。不十分派の52%が十分派の29%を大きく引き離している。2年でも似たようなものである。学生の立場からするとコマ数の足りなさが開講種目のバリエーション不足に反映すると見えるのかもしれない。どの時間帯にも十分な種目を展開するには莫大なコマ数を要する。なかなか難しい。

スポーツ実習が新座でなく池袋であ

れば履修したいか訊くと、1年では2.5%、2年では3.4%履修希望が増えた。スポーツをやる意志のないものは逆に減っているが、2年でも5%足らずである。この数値を見る限り、場所に関係なくほぼ半数の学生がスポーツ実習の履修を希望していると言えよう。ただし、新座にスポーツ以外の科目で行く必要のない2年生向けの質問項目に「新座のスポーツ実習も履修したいか?」を設定したところ、73%が否の回答であった。それでも履修意志のあるものは11%だった。新座1日利用がなくなると、池袋学部学生の十分なスポーツ履修は難しくなるし、スポーツをやりたい学生の不満が高まることもあると思われる。

午後遅い時間帯について

9・10時限の授業は1年の70% (内「大いに」は52%)、2年の77% (内「大いに」は56%)に嫌われている。最近検討されている11・12時限も同様に、両者同率で71%に嫌われている。教室事情を考えると学生の要求と授業展開時間帯を一致させるのは難しい。

後期科目の前期登録は不都合か?

これも圧倒的に不都合と出た。1年の70%、2年に至っては実に79%までが不都合としている。大いに不都合とした率も高い(1年49%、2年59%)。これは我々の間でも既にかなり以前から問題とされてきたものではあるが、

諸々の事情で改善の困難なものである。この圧倒的な学生の声を背景に、事態の打開を計るべく、各所における尚一層の努力が望まれる。

自由記述でもこの点の不満は際立っていた。そして、授業開始から1週間で履修科目を決めなければならないことにも不満の声が多い。履修要項の不備(情報の質と量の問題、実際の授業内容方法との乖離)と相俟ってこの問題の根は深い。

〈1年次生向け質問〉

学部別指定単位の内訳に意味を認めるか?

肯定派24%に対して否定派55%と、学部指定の意味が分からない学生が圧倒的である。各学部はそれぞれ他の学部と違う内訳指定をしているのだから、その独自性、その理念を学生に分らせる義務があるだろう。それぞれの学部のカリキュラムとしての全カリ総合科目というかたちで学部融合してゆくためには、全カリを自分にとって意味あるものとして位置づけることが肝要である。全カリに対して学部がもっと主体性を発揮することが期待される。

超過単位が学部指定の範囲内で卒業要件に参入されることを知っているか?

知っているもの45%、知らないもの48%。ほぼ同数。しかし、本来全員が

知っていなければならないことであるから、この数値は問題である。全カリ単位が一般教育と違って柔軟であるということをもっと徹底することがある。考え方として、専門科目でも全カリ科目でも充当できる卒業要件単位の部分を「フリーゾーン」として設定する方向で、この制度を徹底する必要があるのではないか。

総合科目を学部所定単位以上に履修したいか？

肯定派40%、否定派44%でやや否定派リード。その内、大いに全カリをたくさんやりたいというもの12%、所定単位以上全然やりたくないというものは13%であり。自覚的全カリ否定者は多くないということか。もっと全カリの魅力を高めなければいけないし、専門科目履修との関係における全カリの意味理解をもっと浸透させる努力をしなければならない。

総合 A 群の 1 学期 6 単位の履修制限は厳しいか。？

「大いに」33%を含む61%の学生が厳しいと見ている。そう思わないもの26%を大きく引き離している。自由記述でもこれを問題にしているものが散見された。これは予想したことだが、学生には履修計画の枷となっているようだ。しかし、それは当初から狙っていたことである。学生が卒業までバランスよく専門と全カリを競合させてゆくためには、今までの履修行動の流れ

を変えなければならない。その意味で、ねらい通り学生に新しい学習のスタイルを摸索させるきっかけとしたい。

1 年次で履修可能な専門科目数は十分か？

これも各学部のカリキュラムの現状を見る限り全く予想通りなのだが、十分とするもの30%に対して、不十分とするものは51%である。1年でもっと専門の入門科目、基礎科目に触れ、学問の息吹に触れ、その上で対抗カリキュラムとして全カリに挑戦して欲しいというのが、我々の願いである。自由記述にも、1年でもっと専門に触れたいという要望が多数寄せられていた。その意味で、各学部は全カリの精神に鑑み、専門科目をもっと1年向けに開講して欲しい。

<2 年次向け質問>

一般教育から全カリへの変化の捉え方について

半期科目になって履修しやすくなったかとの質問には、否定的な回答(54%)が肯定(34%)を上回る。履修届の前期一括提出等の問題が影を落としているのか。

履修要項の説明だけで履修が決められたか？ 67%対22%で圧倒的に否定された。やはり不十分だと私も思う。

旧3分野科目から総合科目への変化を感じるか？ これもだめ。52%対31

%で否定された。

変化をどの様なところに感じるか？無回答が47%を占める。前の質問への回答を反映している。それぞれ支持率は低いが順位付けすれば、科目区分・区分名(20%)、教員の授業法・熱意(10%)、授業形態(9%)、授業内容(8%)、その他(7%)の順である。支持は少ないものの教員の授業の工夫と熱意が2番目に入っているのが救いか。ただし、数値を見る限り、この順位に意味があるとも思われないが。道はまだ遙かである。

全カリになって良かったか？

全体に全カリになって良かったか？ 厳しい。分からない・無回答が31%いるとは言え、49%対20%という圧倒的大差で否定された。

受講して良かったと思う授業が増えたか？ こちらも上と同じ。分からない・無回答の28%があるが、51%対22%で否定された。

全カリになって授業が分かり易くなったか？ これはもっとひどい。最悪である。62%対14%という4.4倍もの圧倒的大差で否定し去られた。これは問題である。学期完結型授業に教員が慣れていないとは言え、学生をカリキュラム改革の犠牲にしてはならない。教員の意気込みは学生に、当初の思惑とは違った受け取られ方をしたのかもしれない。それは次のデータに出ている。

出席、レポートなど、授業が厳しく

なったか？ 45%の学生が厳しくなったと回答し、そう思わないとする学生35%を上回った。

学生から見ると、教員は全カリになってもさして変わり映えしない授業をやって、履修規定だけが面倒になり、授業が分かり易くなったのでもないのに、単位の出し方だけが厳密になった、これじゃあ楽勝科目でもなければやっていたらいい、というところなのだろうか。だが学生にももちろん問題はあ

全カリになって自分の心構えが変わったか？

「大いに」4%を含む22%が変わったと答えるにとどまる。60%の学生は変わらないと答えている。つまり、カリキュラムが全カリになろうとも、一般教育(パンキョウ)のつもりで履修するということだ。それでは、授業の変化にも関心がないのではないか。大学の学生に向けた勉学上の熱いメッセージを受け止めていないのではないか。

全カリは学生と教員の長年の慣習を改めようとする運動でもあるので、一朝一夕に学生に理解され、正しく評価、批判を受けるというわけにはいかないだろう。また、教員の側にもまだまだ全カリの精神が行き渡っているとは言いがたい。このアンケート結果をこれからの全カリ運動の励みとしたい。

自由記述

その他、質問項目になかった指摘が

自由記述に散見された。筆者の主観的
判断で目についたものを紹介する。
「もっと意見を言う機会を与えて。」
「半期の授業は通年のものより内容が
薄いのではないか。」
「楽勝科目をなくして卒業要件単位を
大幅に減らせ。」
「期待したが裏切られた。」
「履修単位の内訳指定をやめて欲しい。」
「履修要項に授業曜日時間を入れて。」
「総合Aの6単位制限は意欲を削ぐ。」
「全カ力は不徹底。吟味のできていな
い改革に学生を巻き込むな。」
「全カ力の試験は持ち込み自由にすべ
き。自分で作ったノートや資料を使っ
て書くのが全カ力の趣旨にあってい
る。」

「専門を増やせ。改革のやりすぎだ。」
「あついなあ、おじさんは。みな五月
蠅いのよ。」
「専門でも必修としてやらざるを得な
い科目より、全カリの方が興味を持っ
て楽しく学習できる。」
「単位が取りやすい科目と取りにくい
科目の差が大きすぎる。」
「何で一般教養なくしたの。これじゃ、
学生の質はますます落ちるぞ。」
等々。

これらを学生からのエールだと思い、
今後立教大学が全カリ運動を発展させ
てゆくよう心から祈っている。

(ささき かずや 本学文学部助教授
全カリ運営センター 総合専門委員)